

大学におけるオンライン授業の満足度についての分析

吉田健一郎¹⁾, 千葉庄寿²⁾, 上村昌司¹⁾, 匂坂智子³⁾, 花田太平²⁾

横田理宇¹⁾, 神田彰信⁴⁾

1) 麗澤大学経済学部

2) 麗澤大学外国語学部

3) 麗澤大学国際学部

4) 麗澤大学 IT ソリューションセンター

sword16@reitaku-u.ac.jp, schiba@reitaku-u.ac.jp, kamimura@reitaku-u.ac.jp,
tsagisak@reitaku-u.ac.jp, hanada@reitaku-u.ac.jp, ryokota@reitaku-u.ac.jp,
akanda@ad.reitaku-u.ac.jp

Analysis of factors that increase or decrease satisfaction of online classes in Reitaku university

Kenichiro Yoshida¹⁾, Shoju Chiba²⁾, Shoji Kamimura¹⁾, Tomoko Sagisaka³⁾

Taihei Hanada²⁾, Riu Yokota¹⁾, Akinobu Kanda⁴⁾

1) Faculty of Economics and Business Administration, Reitaku University

2) Faculty of Foreign Studies, Reitaku University

3) Faculty of Global Studies, Reitaku University

4) IT solution center, Reitaku University

概要

2020年度はコロナ禍の影響で日本の大学では全学的にオンライン授業を開始した年である。多くの大学にとってほぼ初めての取り組みであり、試行錯誤しながら準備を整え、ベストプラクティスを模索しながら、前期を終えたといっても過言ではない。本学においても2020年5月よりオンライン授業を開始することとなり、その後1ヶ月経過した段階(6月10日~14日)で、オンライン授業に対する満足度調査を行った。小稿ではこの調査結果をもとに、二項ロジスティック回帰分析を用いて、オンライン授業の満足度に影響を与える要因を明らかにするとともに、授業形態別の違いを特定することを目的とする。

1 はじめに

コロナ禍の影響を受けて、本学においては2020年5月よりオンライン授業を開始することとなったが、実態把握・改善を目的として、開始後1ヶ月経過した段階(6月10日~14日)で、オンライン授業に対する満足度調査を行った。小稿ではこの調査結果をもとに、オンライン授業¹⁾の満足度

に影響を与える要因を明らかにするとともに、授業形態別の違いを特定していく。

分析の過程において、本学特有の要素が多数出てくるため、まずは本学の組織体制を概観することとする。麗澤大学は千葉県柏市に立地し、全年の定員2400人、外国語学部、経済学部、国際学部の3学部体制の比較的小規模の大学である。情報教育及び情報環境の整備については大学ITソリューションセンターが担っており、本報告のメンバーのほとんどはこのセンターの委員もしくは職員であり、オンライン授業を実施するためのマ

¹⁾ 教室などにおいて教員と学生が対面して行うのではなく、インターネット等を通して遠隔で行う授業をオンライン授業といい、以下、小稿では次のように区別して表現する。

1. リアルタイム型：Web会議室システム（Zoom や Google Meet など）を用いて教員と学生全員がオンラインでつながり授業を行う形態。
2. オンデマンド型：授業管理システム（Learning Management System、LMS）などに教員が用意した映像教材をもとに学生が個別に学習する形態。

3. 資料提示型：ナレーション付きの講義資料（音声付き、またはメモ部に解説を入れた PowerPoint ファイルなど）や、教員が用意した説明資料をもとに、教科書などによる自習・演習を行い、別の手段（メールや掲示板など）で質問や議論を行う形態。



図1 麗澤大学のオンライン授業のシステム構造

ニュアル、ツール類の選定、FD の開催などを行った。

2 麗澤大学のオンライン授業のシステム構造

麗澤大学のオンライン授業は図1のように3層構造になっており、「Moodle」と「Google Classroom（以下、Classroom）」を中核として、教員が課題を出したり、レポートを受け取ったり、教員が学生とコミュニケーションを図っていく仕組みとした。また、リアルタイム型の授業については全学的にZoomのEducational版のライセンスを購入し、全教員（専任教員＋非常勤講師）に配布した²。

また、オンライン授業の形態については教育目標を達成するのに最も適した授業形態を教員が自身で選択し、そのための教育コンテンツを制作することとした。

3 調査概要

授業開始から約1ヶ月が経過した2020年6月10日～14日の5日間、全学生である2,873名を対象にオンライン授業に関するアンケート調査を実施した。「オンライン授業にスムーズに参加できているか」や「インターネット接続状況」などを含めた以下の18項目である³。

² 専任教員・非常勤講師を対象として、4月にZoom、Classroom、Moodleの利用に関するFDを各4回～5回、実施した。

³ アンケートの全文、単純集計結果については本学Web

- 設問 1 現在、授業にはスムーズに参加できていますか？
- 設問 2 インターネット通信環境は何ですか？
- 設問 3 インターネット接続状況はいかがですか？
- 設問 4 現在利用している機器は何ですか？
- 設問 5 現在利用している機器での受講に支障がありますか？
- 設問 6 下記の学修支援サポート（ツール）を利用しましたか？
- 設問 7 現在受けているオンライン授業の形式についてお答えください（複数回答可）
- 設問 8 オンライン授業の満足度はいかがですか？
- 設問 9 授業の課題の量はいかがですか？
- 設問 10 授業の課題に対する教員から何らかのフィードバックはありますか？
- 設問 11 Zoomを用いたリアルタイム型における授業でグループワークやディスカッションは実施されているか？
- 設問 12 Zoomを用いたリアルタイム型において、学生の発言・質問の機会はどのくらいありますか？
- 設問 13 Zoomを用いたリアルタイム型における自身の「顔出し」についてどう感じますか？
- 設問 14 オンライン授業で困っていることについてお答え下さい（複数回答可）
- 設問 15 オンライン授業でよいと思うことについてお答え下さい（複数回答可）
- 設問 16 2学期の授業開講形態について希望はありますか？
- 設問 17 大学の授業以外で動画を中心としたオンライン学習サービス（スタディサプリなど）を利用したことがありますか？
- 設問 18 前期授業が開始される前からTwitterやInstagramなどで、オンラインコミュニケーションをすることは多かったですか？

ページをご覧ください。

<https://www.reitaku-u.ac.jp/news/images2/2020/06/5c3ea42fa8b2d3f30d2ef7c10b9c253a.pdf>

回答数は 1,016 名で「オンライン授業にスムーズに参加できているか」に対しては 95%以上がスムーズであると回答し、また、オンライン授業全般の満足度については、回答学生の 4 分の 3 以上が授業にある程度満足していると回答している。また、後期の授業形態についての希望を問う項目では、36.3%が対面授業を希望している一方で、「オンラインの授業継続を希望している」、「対面かオンラインか選択したい」と答えた学生が合わせて 47.7%と約半数がオンライン授業の継続を希望していることも明らかとなった。

4 授業形態・学年別の満足度

本調査データをもとに、オンライン授業の形態別(リアルタイム型:Zoom 利用、オンデマンド型、資料提示型)、学年別にオンライン授業に対する満足度についてみていく。

図 2 はオンライン授業の形態別に見た授業満足度である。大学全体におけるオンライン授業の満足度を見ると、資料提示型の満足度が低いことがわかる。

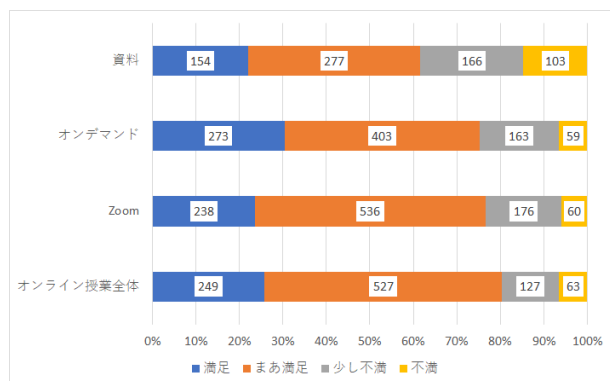


図 2 オンライン授業の形態別の授業満足度

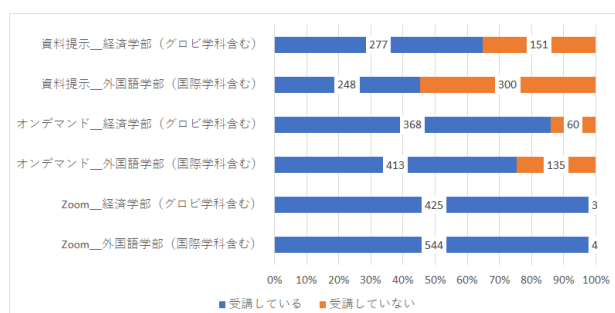


図 3 オンライン授業形態別の受講比率

受講しているオンライン授業の形態を学部別(旧区分)にみると、外国語学部は Zoom を用いたリアルタイム型の授業の割合が高く、一方で経

済学部の方が多様な授業形態を受講していることがわかる。これは主に外国語学部には語学の授業が数多く開講されているためであると考えられる⁴。

また、図 4 に示す通り、満足度の平均値 (1~4) を新入生/上級生で比較すると、どのオンライン授業の形態においても、新入生の方が 2 年次~4 年次の学生よりも満足度が高くなっている。特に教員の映像がまったく見えない資料提示型において満足度が低くなっていることから、これまでキャンパスにおいて対面で受講していた 2 年次以上の学生は、オンライン授業とのギャップを新入生よりも強く感じていたのではないかと考えられる。

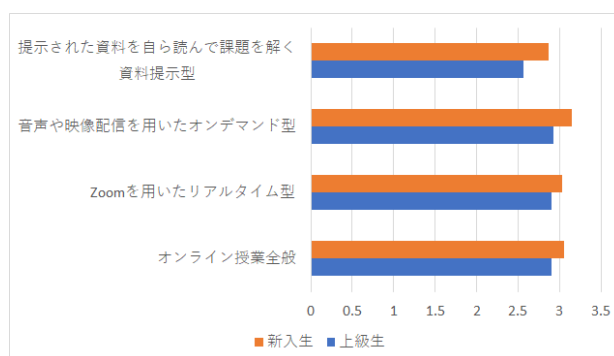


図 4 学年別(新入生/上級生)の授業満足度

5 オンライン授業の満足度に影響を与える要因

オンライン授業はキャンパスにおいて対面で行う授業とは異なり、オンライン授業を受講する場所は自宅であり、受講環境が個人々人によって大きく異なる。また、そうした受講環境による影響だけでなく、オンライン学習の経験の有無、オンライン空間への慣れ、そして、キャンパスでの授業に抱いていた期待とのギャップの程度など、満足度に与える影響は多数あると推察できる⁵。そこで、「オンライン授業の満足度」を被説明変数、「①自宅で使用するデバイスの不具合、②新入生/上級生、③オンライン授業の困難さ(質問のしにくさ、

⁴ 3 学部制になったのは 2020 年度からであり、国際学部は従来外国語学部を設置されていた国際協力・国際開発専攻、日本語コミュニケーション専攻と、経済学部を設置されていたグローバル人材育成専攻が母体となっているため、今回の分析では旧区分のままとした。

⁵ 教員の授業スキルなどの教員に帰属する要因も当然あるが、今回は個々の授業の満足度を測定はしていないこと、そして、あくまでオンライン授業固有の要因を特定することに重きをおいているため、その点については小稿では考慮していない。

表 1 二項ロジスティック回帰分析結果

説明変数	基準値	比較値	オンライン授業全般の満足度			Zoom を用いたリアルタイム型の満足度			資料提示型の満足度		
			偏回帰係数	オッズ比	有意確率	偏回帰係数	オッズ比	有意確率	偏回帰係数	オッズ比	有意確率
学年	新入生	2-4 年次	-0.856	0.425	.000***	-0.745	0.475	.000***	-0.407	0.665	.032**
デバイスの不具合	無し	有り	-0.789	0.454	.000***	-0.761	0.467	.000***	-0.666	0.514	.001***
オンライン授業経験	無し	有り	0.441	1.554	.037**	0.055	1.057	.777	0.024	1.024	.905
SNS 利用経験	無し	有り	0.014	1.014	.940	0.237	1.267	.171	-0.437	0.646	.016**
質問がしにくい	無し	有り	-0.649	0.522	.000***	-0.560	0.571	.001***	-0.521	0.594	.006***
集中力が持続しない	無し	有り	-0.963	0.382	.000***	-0.704	0.495	.000***	-0.692	0.500	.000***
ツールの使い方が困難	無し	有り	-0.584	0.558	.037**	-0.772	0.462	.003***	-0.320	0.726	.288
PC 操作が困難	無し	有り	0.012	1.012	.955	-0.243	0.784	.201	-0.061	0.941	.759
教材がわかりにくい	無し	有り	-1.108	0.330	.000***	-0.871	0.418	.000***	-0.847	0.429	.000***
勉強のペースが掴みにくい	無し	有り	-0.726	0.484	.000***	-0.504	0.604	.004***	-0.845	0.430	.000***
孤独感	無し	有り	-0.225	0.798	.319	-0.190	0.827	.383	-0.232	0.793	.324
定数			3.352	28.572	.000***	2.967	19.438	.000***	2.399	11.016	.000***

*p<.1, **p<.05, ***p<.01

集中力の持続が困難、授業ツールのわかりにくさ、PC 操作が不慣れ、教材のわかりにくさ、勉強のペースのつかみにくさ、孤独感)、④オンライン学習経験の有無、⑤SNS の利用度」を説明変数とする回帰モデルを構築し、二項ロジスティック回帰分析を行った結果を表 2 にまとめた。

オンライン授業全般の満足度を被説明変数とする分析についていえば、教材のわかりにくさが満足度を低下させる要因の 1 位であり、次いで、集中力が持続しないことが 2 位、2 年次以上であることが 3 位、デバイスの不具合が 4 位、勉強のペースの掴みにくさが 5 位、質問のしにくさが 6 位となっており、これらの要因が満足度を低下させる大きな要因になっていると言える。他方で、オンラインの授業経験の有無は偏回帰係数が正の値となっており、オンラインでの授業経験のある学生の方が大学のオンライン授業への適用度も高いのではないかと考えられる。

次にリアルタイム型の授業と、性質としてはその反対に位置する資料提示型の授業の結果について比較する。1 位が教材のわかりにくさであることは変わらないが、次の 3 点について大きく異なっていることがわかる。

1. 時間割に基づいて参加しなければならないリアルタイム型の授業と比べて、資料提示型の授業では学習のペースが掴みにくいことが満

足を下げる大きな要因になっている。

- Zoom というツールの使い方に不慣れな学生にとっては、リアルタイム型の授業の満足度を下げる要因になっている一方、資料提示型の授業ではこの要素は有意とはなっていない。
- SNS 利用経験のある学生、すなわちオンライン空間にある程度慣れている学生にとっては資料提示型の授業はあまり魅力的に映らないと考えられ、資料提示型の授業の満足度を下げる要因になっている (5%水準で有意) 一方で、リアルタイム型の授業ではこの要素は有意となっていない。

また、全体を通して、孤独感はオンライン授業の満足度に影響を与えることはないというのも特徴的な結果であるといえよう。

6 おわりに

オンライン授業の形態によって、満足度を引き下げる要因とその影響の大きさが異なることを小稿の分析を通して明らかにすることができたのではないだろうか。今後も様々な観点からデータドリブンな基礎として授業の改善を図っていく。

参考文献

[1] 小田利勝 (2012) 『SPSS による統計解析入門』プレアデス出版